

背景

高知龍馬空港の航空ネットワークの持続的な発展を目的として、H30年度に設立された「高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議」において、関係機関が共通の目標を掲げ、その目標を達成するために取り組むアクションプランを策定

アクションプランの計画期間は、R5～R7年度の3年間とし、目標値は高知龍馬空港を利用する航空旅客を180万人以上とする。

実績・目標

路線	H30年度	R3年度	R5年度	R7年度(目標)	目標達成に向けた取組方針
羽田 成田	153万人 (74%)	71万人 (51%)	106万人 (71%)	127万人 (74%)	・羽田線はコロナ前の搭乗率(74%)まで回復させる ・搭乗率の底上げによる成田線の定着
伊丹 関西	29万人 (74%)	12万人 (52%)	27万人 (82%)	27万人 (77%)	・伊丹線はコロナ前の搭乗率(77%)まで回復させる ・関西線の就航を目指す
福岡	7万人 (67%)	3万人 (45%)	8万人 (71%)	8万人 (75%)	・搭乗率75%の達成を目指す
名古屋	9万人 (70%)	6万人 (40%)	12万人 (67%)	12万人 (70%)	・3便運航を定着させる
神戸	-	2万人 (33%)	3万人 (46%)	4万人 (70%)	・路線を定着させる (R6.3月末から運航を休止)
国際線 (チャーター便)	0.2万人 (14便)	0万人 (0便)	3万人 (188便 94往復)	1.6万人 (100便 50往復)	・エアポートセールスを強化し、定期チャーター便化を目指す

目標値

R7年度 年間空港利用者  
**180**万人以上  
(R元年度実績 155.9万人の115.5%)

計画期間

R5(2023)年度  
～R7(2025)年度  
**(3年間)**

重点課題

A 需要の喚起      B 受入体制の改善      C 空港施設の機能強化

● 関係機関が連携した需要喚起

- ・既存路線の利用促進
- ・新規路線の認知度向上
- ・LCC路線の拡大

● 国際チャーター便の誘致

- ・海外の航空会社・旅行会社へのセールス継続

● 国際線受入体制の連携強化

- ・国際線受入連絡会において、現在のターミナルビルでの受入れ体制について協議を継続

● グランドハンドリングの体制強化

- ・グランドハンドリング事業者、関係機関連携の下 人材確保・定着促進に向けて取組を検討
- ・安全保安を大前提とした需要増加に応じた体制の構築

● 新ターミナルビルの整備促進 (文言修正)

- ・国際定期便を見据え、新ターミナルビルの機能や規模、整備の時期などについて検討し、整備を促進。

実績・目標

	R元年度	R5年度	R6年度	R7年度
空港利用者数	156万人 (実績)	目標160万人 (実績159万人)	目標170万人	目標180万人以上
国内定期便	156万人 (実績)	目標160万人 (実績156万人)	目標170万人	目標180万人
国際チャーター便	4往復8便 (実績)	目標50往復100便 (実績94往復188便)	目標50往復100便	目標50往復100便